

# KLIS TODAY

No.  
9

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162

URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 「植物園パンフレット」優秀作品—情報リテラシ実習—

後藤 嘉宏

平成21年度に入学した1年生は、必修科目「情報リテラシ実習」の課題のひとつとして、国立科学博物館筑波実験植物園のパンフレットを制作するという課題に取り組みました。情報リテラシ実習

は、情報の獲得・発信のスキル向上を目的とした本学類独自の科目です。今回の課題は「小学生向け（児童の興味を惹く、わかりやすいもの）、A4サイズ4ページ」という設定です。はじめに植物園の研究者から説明を受けて、自由に見学した上で、全員が取り組みました。（次ページへ）

### 作品とコメント

**最優秀賞 木田 里美さん** パンフレットを作るにあたって目指したことは、「もらってうれしい、捨てられないパンフレット」です。そこでゲームの攻略本、またはゲーム画面そのものをイメージして作ってみました。このパンフを持ったら、ゲーム感覚で植物園内を回って、楽しみながら探検できると思います。

（きだ・さとみ）

（次ページにも優秀作品を掲載しました。）



(前ページから続く)

作品は11月20日～12月2日の期間、7B206教室に展示され、一年生の「相互評価票」と一般見学者の投票によって、作品の評価を得ました。「相互評価票」には良かった作品5点と、その理由を書いてもらいました。最優秀賞に木田里美さんが、優秀賞に川島夏海さん、山村悟さんが、また審査員特別賞に西郷智帆さんが、それぞれ選ばれました。佳作には小山内康生さん、吉田麻里さん、小室里花さんが選ばれました。

12月9日の表彰式では入賞作品・佳作の「相互評価票」のコメントが教員から読み上げられましたが、しっかりと対象を捉えたコメントが多いことに驚かされました。

(ごとう・よしひろ 知識情報・図書館学類 准教授)



## 作品とコメント

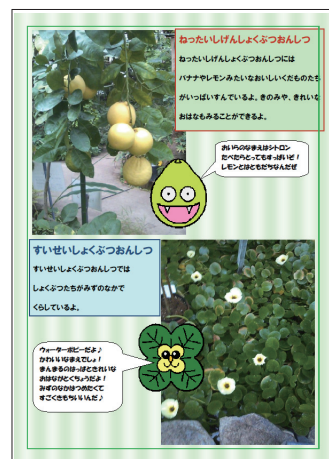


**優秀賞 川島 夏海さん** 対象が小学生なので、「見ていて楽しいパンフレット」をコンセプトに作成しました。紹介する植物や配色、文体を工夫することで、小学校低学年の子どもたちでも楽しく読むことができるものに仕上がったと思います。

(かわしま・なつみ)

**優秀賞 山村 悟さん** 小学生を対象としたパンフレットということだったので、いかに興味をもって見てもらえるかを最優先に考えて植物をキャラクター化し、かくれんぼ感覚で植物園を回ってもらえるように工夫しました。なるべく文字を少なくして写真やイラストを増やしたことで低学年の子どもにも読みやすいパンフレットになったと思います。

(やまむら・さとる)



**審査員特別賞 西郷 智帆さん** 「いつでもどこでも役に立つパンフレット」を作成方針にして、レイアウト面ではシンプルで見やすく実際に利用しやすいことを、内容面では最低限必要な情報が記載されていることを目標としました。

(さいごう・ちほ)

## 日本縦断&海外自転車旅行

村井 宏任

僕は高校生の時にふと何かの拍子に自転車で日本を縦断した人の記事を見ました。その時の衝撃は今でも覚えています。とんでもない奴がいるもんだと思うと同時に胸が熱くなりました。それから受験勉強なんてそっちのけで自転車旅行の妄想にふける毎日でした。



1年生の夏にはヒッチハイクをしました。筑波大学横の西大通りから大阪までの少しの挑戦でした。この夏は免許合宿にサークル合宿に高校の同窓会と忙しかったのでこれが精一杯でした。2年生になり夏が近づくと僕はバイトを掛け持ちし、ひたすらお金を貯めました。後はギターを持って旅に出るだけでした。最北端を目指し最南端の島がゴールです。ママチャリでギターを弾き、野宿しながらの旅だなんてもう僕に勝てる奴はいないだろうと思いながら…。

だけど上には上がいました。旅のゴールの沖縄で、フランスをヒッチハイクで一周した、オーストラリアを自転車で縦断した … etc. なんて話を聞いてしまったのです。

奮起した僕は、3年生になって、シンガポール〜マレーシア〜タイのマレー半島自転車の旅に出ました。もちろんギターを持って。バンコクに予想より早く着いた僕はカンボジアにも寄りました。右の写真はカンボジアの方の家で、現地で知り合った日本人の友人と食事を御馳走になっているものです。

正直つらいことはたくさんありました。出発する時はいつも一人でした。雨も降りました。野生動物に怯えて眠った日もありました。でも行く先々で応援を受けました。沢山のの人に会い、つくばに戻る時、僕はいつも誰かに見送られていました。

こんな旅が出来た今、僕はもういつでも死んでもいいと心から思えたりするのです。

(むらい・ひろひで 知識情報・図書館学類3年次)



地元の方にご馳走になった（カンボジア。黄色が僕）



出会った「冒険者たち」（中央が僕）

## 2009年度BEST FACULTY MEMBERとして 大庭一郎講師が表彰されました



山田信博学長と大庭一郎講師(右)

知識情報・図書館学類の大庭一郎講師が、筑波大学の大学教員業績評価にて、教育活動において極めて優れた活動を行った教員として、表彰されました。極めて熱心かつ真摯に授業や卒業論文・修士論文の研究指導を行っていること、さらに公務員試験準備講座の実施や面接試験の個別指導等により学生の就職活動をサポートしていることなどが高く評価されました。

授業と公務員試験準備講座を受講している学生から、メッセージを寄せていただきました。

「厳しい。」この言葉なくして大庭先生を語ることはできません。

先生の授業は前回の復習から始まります。指名された学生が起立して質問に答えるのですが、百名以上の受講生の中から最初に指名されたのは偶然にも私でした。授業であの時ほど冷や汗をかけた経験はありません。

公務員試験準備講座では「厳しいことを言うようですが」という言葉に続けて、現在の就職状況について説明していただきます。今の私達にとってはまさに耳の痛い話です。

では、どうして私達学生はこの「厳しい」先生を尊敬し、信頼するのか。それは、先生の真剣さが伝わってくるからです。先生は、学生の質問に丁寧に回答して下さいますし、公務員講座では「絶対に大丈夫」と強く背中を押して下さいます。

大庭先生の厳しくも真剣なご指導があるからこそ、私達は目標を見失わずに進めるのだと思います。

井上 知永理 (いのうえ・ちえり 知識情報・図書館学類3年次)



公務員試験準備講座の風景

先生と授業を通じて初めてお話したのは2年次「経営・組織論」の休み時間であったと記憶しています。当時の私は赤エンピツを好んで用いていましたが、そのレトロさが目にとまったのか声をかけてくださり、お話したのを今でも覚えています。ありふれた光景と思われるかもしれませんが、しかし大学教員といえば休み時間は研究室に一度戻られるのが普通であり、いつも教室に残って丁寧に学生に対応するというのはとても珍しいことなのです。

緻密な配慮が隅々まで行き届いた授業が1学期間にわたり展開されました。先生の授業は私の中に知識として定着し、日々の学習や研究で大いに役立っています。

三津石 智巳 (みついし・ともみ 知識情報・図書館学類3年次)

